

## INTERVIEW：インタビュー



ダンサー

### 織田 慶治さん 理子さん

今月のインタビューは、社交ダンス統一全日本選手権 6 連覇を果たした、社交ダンス界のスーパースターである織田慶治、理子ペアです。まだまだ日本では社交ダンスがメジャーとはいえないうち、社交ダンスの魅力に魅せられ、二人が出会い、世界に飛び出し、日本のプロ社交ダンス界において並ぶ者のない、トップに上り詰めるまでの興味深いエピソードを聞かせていただくことができました。社交ダンスをやっている人には垂涎の、社交ダンスをやっていない人には、社交ダンスにはまるきっかけとなるインタビューです。また、お二人は、社交ダンスのペアから、人生のペアとして御結婚され、現在御夫婦でオダケイジダンスアカデミーを経営し、指導者としてダンスレッスンを行っております。同じ仕事、同じ職場を持つ夫婦関係円満のヒントもお聞きすることができます。弁護士同士のカップルにとっても必見のインタビューです。

(聞き手・構成：富田 寛之)

— よろしくお願ひします。

慶治・理子：よろしくお願ひします。

— (ホームページのプリントを見せて) これは『マツコの知らない世界』の番組の一部を取りあげたホームページなんですけれども、全日本ダンス選手権6連覇ということが取り上げられていますね。

慶治：取り上げていただきました。

— この6連覇というのがどれくらいすごいのかというのを教えていただけますでしょうか。

理子：社交ダンスの世界というのは、ボクシングなどと同じで団体が分かれています。各団体にチャンピオンがいて、その各団体のチャンピオンも含め、日本の全ての団体のプロダンサーが出場する大会が、年に一度行われます。それが「統一全日本選手権」という大会で、その大会の6連覇なんです。

— なるほど。

慶治：なので、「統一全日本選手権」のチャンピオンになるということは、日本の頂点ということになるんです。

— プロのダンサーというのはどんな試合に出たりとか、どこで賞金を稼いだりするのでしょうか。

慶治：残念ながら社交ダンスの世界というものがまだ

メジャーじゃないんですよ。スポンサーさんも大きな企業というのはまったく付いてなくて…。あの時は優勝賞金が40万円でした。日本一なのに。なのでプロのダンサーは基本的にはアマチュアの生徒を教えて生計を立てています。トップクラスになると日本全国でショーをするようになります。

— そうするとプロとアマの違いというのはどういうところになるのでしょうか。

慶治：教師試験ですね。結局、教師資格を取った者がプロということになります。

理子：ただ、プロの世界にはランクがあって、そのランクでレッスンやショーの値段も変わっていきます。

— 上がっていくときに昇級試験みたいなものがあるんですか。

慶治：級別に試合があって、A級、B級、C級、D級、ノービス級とあります。1つの試合でだいたい100～200組のプロの選手が出場するのですが、昇級できるのはその試合で決勝に残った3組～6組のみ。ノービス級の試合で勝ち上がるとD級になり、D級の試合で勝ち上がるとC級になるという仕組みです。なのでA級になるということは、とても大変なことなんです。そして全日本の大会で3回優勝すると、A級の上のSA級になることができます。相撲でいう横綱ですね。要するに全日本チャンピオンです。日本には1組しかいません。

— なるほど。

**理子**：それが私たちです。

— 先生方、ダンスを始めたきっかけというのは？

**理子**：実は、「ウッチャンナンチャンのウリナリ」（日本テレビ平成8年～平成14年、企画として「ウリナリ芸能人社交ダンス部」がある）を見てなんです。

— そうなんですか（笑）。

**理子**：世の中にこんなに楽しそうなダンスがあるんだと、もう衝撃でしたね。

— なるほど。慶治先生は何がきっかけですか。

**慶治**：僕は実家の近くにダンススタジオがあって、そのダンススタジオの娘さんと幼なじみで、ちょくちょく家に遊びに行っているときに、その娘のお母さんに「1カ月後に発表会があるから、うちの娘と出てよ」と言われたのがきっかけです。

— それは何歳ぐらいでしたか。

**慶治**：中2のときですね。13、14歳でした。

— 思春期ですね。

**慶治**：そうです（笑）。だから友達には内緒にしました（笑）。

— 内緒ですよ。

**慶治**：当時は社交ダンスは年配の方の趣味というイメージがありましたね。

— 確かにそうですね。ダンス漫画とかのシーンでも出てきますが、なかなか男の子としては、恥ずかしくて言えない部分がありますよね。

**慶治**：言えないですよ。でも、よくないですよ。本当はもっとかっこいいのに！

— どういう点が一番の魅力でしたか。

**慶治**：最初は嫌だったんですよ、実は。

— 嫌だったんですか。

**慶治**：というのは、群馬の田舎では若い子で社交ダンスをやっている子もいないですし、自分自身社交ダンスの世界も知らなかったんで、これはもうご年配の方が

やるものじゃないかなとずっと思っていました。

それが、あるときにプロのショーを見る機会がありまして、プロのダンサーの踊りを見たときにものすごく衝撃を受けましたね。本当にカッコよかった。そのギャップですよ、結局は。若い人もやっているんだ、プロの世界はすごいんだと。それで高校を卒業したらプロになろう決心しました。

— なるほど。そうですね。理子先生は？

**理子**：私はテレビの「ウリナリ」を見て社交ダンスを始めました。始めてから、もう本当にダンスが楽しくて、毎日ダンスをしていたので、学校にもダンスシューズを持って行って廊下とかで毎日ルンバウオークを練習したり、あと友達とか男の子とかみんなに声を掛けて、体育館でダンスをやらない？と誘ってみんなでダンスをしたり（笑）。

— すごい好きで、そのまま先生というか、競技ダンスの世界に入ろうと思ったのですか。

**理子**：そうですね。また習っていた女性の先生が、美人ですごく優しい先生で。その先生への憧れとかもあって、絶対プロになりたいと思っていました。

— なるほど。それでお二人がペアをというか、組まれたのが2002年というふうに書いてあるんですけど、これは何かきっかけがあったんですか。

**理子**：お見合いです。ダンス雑誌のリーダー＆パートナー募集のところで。

— お見合いをして、ペアを組もうかという決め手は、どういうところでしたか。

**慶治**：初めてダンスのお見合いをした時に、踊った感触やフィーリングがマッチしていたのと、やはり志が同じところにあったということが一番の決め手でしたね。お互いに全日本のチャンピオンになるという夢がありましたから。

— そのときから日本一を目指して見ていたんですね。

**慶治**：そうですね。すぐにでも海外に行って勉強をしたいという意見も一致していました。

**理子**：私も初めて踊った時に、フィーリングで絶対この人だと思いました。



— それは踊りの相性がいいということでしょうか。

**理子：**初めて会って、すぐに相性がいいかどうかは分からないんですけど、手を組んで踊った感覚が何か特別な感じがしました。まだまだお互いに下手なんですけど、あ、これだ！という感覚でしたね！

— そうすると最初に出会ってからずっとペアとして続いているということですね。そういうペアはなかなかいないのではないですか。

**慶治：**珍しいと思います。

**理子：**そうですね。

**慶治：**やっぱり価値観って大事ですからね。社交ダンスって結婚相手を見つけるよりも難しいといわれているんですよ。2人のダンスに対する熱とか、身長や体型のカップルバランスとか、あと求めているものとか目標とか、そして踊りの質ですよね。全部が合っていないと成功するのは難しいんです。

— ダンスではやっぱり男性側がリーダーになって女性がパートナーという感じになりますけど、その男性側がリードするのに対して、女性側がフォローするみたいな、そこら辺の性格的なところも合致をした方がうまくいくのでしょうか。

**慶治：**リード&フォローというのは性格的なものよりもダンスの技術的なものになっていきますね。社交ダンスというのは2人で踊るものですから、男性のリードに対

して女性がフォローし、2人のダンスが出来上がっていきます。なので、フィフティー・フィフティーですね。男性のリードがいくらうまくても、女性のフォローがうまくないと踊れないんですよ。もちろんその逆もあります。**理子：**両方うまくないと無理ですね。片方がうまくいからと成功するわけじゃないんです。

— そうですか。なるほど。お二人は私生活でもご結婚をされたということなんですが、そうすると仕事でも一緒に、結婚生活の中でも一緒ということで、何かうまくいく秘訣みたいなものってあるんですか。

**慶治：**私生活にはダンスを一切持ち込まないことですかね。

**理子：**一切持ち込まないですね。

— 例えば今日昼間の試合とかでこんなところがあったよねとか、例えば合わないところとか、ミスしたところがあったよねみたいなことを話し合ったりしないのですか。

**慶治：**練習ではとことん話し合いや研究をしますが、家ではしないですね（笑）。

— 意図的にシャットダウンしているんですか。

**理子：**いや、自動的に切れちゃいます。

**慶治：**自分たちの練習や生徒のレッスンで、朝9時から夜12時まで踊りっぱなしですからね。家ではダンスの話はしたくないですね（笑）。

**理子：**何か不思議なのは、私たちはダンスでケンカとかをしても、練習が終わったらもうケンカは終わっているんですよ。その切り替えがうまく行く秘訣ではないのでしょうか。

— ダンスのカップルから、この人、好きだなという感じで実際に付き合うようにきっかけとかがあってあったんですか。

**慶治：**自然とですね。

**理子：**やっぱり一緒に過ごす時間がすごく長くて、毎日練習するので。

**慶治：**目標や価値観も同じですからね。自然と。

**理子：**自然とそうなっていました。

— 映像を見て、慶治先生の歩き方がすごいかっこよかったのがすごい印象に残っているんですが、ラテンウオークのかっこいい見せ方みたいなコツはどのようなものなのでしょうか。

**慶治:** 基本的に何でもそうだと思うんですけど、基礎がとても大事なんです。例えばプロ野球選手は何度も何度もバットの素振りや、投球フォームを確認、練習するじゃないですか。サッカーだって、卓球だって。それぞれのスポーツにはそれぞれの立ち方や構え方があるように、ダンスにもダンスの基礎があって、そこがまず第一です。その土台を徹底的に体に叩き込むことが大切です。

**理子:** 基本ですね。

**慶治:** そう。根本をまず徹底しないと、きれいいに見えるポイントはそこでしょうね。それができるようになるには、何年もおかかりますけど（笑）。どの世界でも一緒だと思います。

— なるほど。私、過去の全日本選手権の画像をちょっと拝見したんですけど、素人目にも一番目立っているかなと思いました。織田ペアのここがあったからこそ6連覇できたみたいなの、そういう特徴とか強みとかいうのはどこら辺なんでしょうか。

**理子:** やっぱりストロングさとしなやかさを両方兼ね揃えているところじゃないでしょうか。

**慶治:** 僕もそう思います。

— 強さってどの辺に出るんですか。

**理子:** ダンスというのは、全身運動なんです。ただ手を上げるという動作にも、あらゆる箇所の筋肉や神経を使って手を上げるわけです。それがダンスになる。なので身体のすべてをコントロールできる筋力が必要になっていきます。それがダンスの強さに繋がっていきます。

**慶治:** 強くしなやかな筋肉。ボディビルダーのような筋肉ではなくバレリーナのような筋肉ですね。

— そうですか。先ほど海外の留学を考えられていたということですが、実際に留学は？

**慶治:** ずっとしていました。

**理子:** はい。ロンドンとアメリカです。

— やっぱりロンドンとアメリカというのは、社交ダンスの世界では本場なんですか。

**理子:** ロンドンが聖地ですね。

**慶治:** 一応ロンドンが本場なんですけど、僕らのコーチャー、元世界チャンピオンのドニー・バーンズという先生

がアメリカに住んでいるので、僕らはアメリカにレッスンに行き、試合1カ月ぐらい前にロンドン入りをして、調整をして世界大会に出場するという流れですね。

**理子:** UKチャンピオンシップ、ロンドンインター、全英選手権と、年に3回あります。

— なるほど。その大会で世界のベスト24に入られたのですね。

**理子:** はい。世界の16位が私たちの最高順位です。

— 今からダンスを目指そうとする人に、何かメッセージがもしあるとしたら。

**慶治:** 社交ダンスは子供からお年寄りまで、あらゆる年齢層やニーズに合わせてできる最高のスポーツです。2人で音楽に合わせて踊るから、とても楽しいですよ。誰でもすぐできる簡単なパーティーダンスから気軽に始めてみてください。1人で社交ダンスを始めてもプロの先生と一緒に踊ってくれるので、簡単に踊れるようになります。音楽によって体を動かすことがこんなにも楽しいのか！と思うはずですから！

— 最後に、弁護士とか法律に関してどんなイメージを持たれているかというのを。

**慶治:** 何でもそうですけど、ダンスのことはダンスの先生、野菜のことは八百屋さん、電気のは電気屋さんに聞きますよね。やはりその道のプロの方なので、尊敬しますね。

**理子:** 法律は弁護士さんに聞くということですね。

**慶治:** そう。尊敬しています。

— ありがとうございます。

**慶治・理子:** こちらこそありがとうございました！

## プロフィール おだ・けいじ/さとこ

2002年カップル結成。2009年スーパージャパンカップ全日本セグエ選手権優勝、日本インターナショナルダンス選手権日本人最高位を皮切りに、若干26歳の若さで全日本チャンピオンとなる。その後、日本の数々のタイトルを総なめに。海外では全英選手権ブラックプールチームマッチに3度のアジア代表として選出され、ロンドンインベリアルチャンピオンシップでは日本人では10年ぶりの快挙となるファイナル入りを果たす。JBDFラテンSA級の称号を取得。2014年11月に行われた国内最大の大会、統一全日本選手権で前人未到の6連覇を成し遂げ、現役競技を引退。現在、日本全国でのショーや、後進の育成、ダンス界の発展に尽力している。2014年11月4日放送の「マツコの知らない世界・社交ダンスの世界」に日本一のカップルとして出演。1時間トークやダンスを披露した。